

曹洞宗 蟠龍山 護国院 芳全寺

芳 ほろれん 蓮

2024年新年号

ただまさに法を重くし
身を軽くするなり

令和6年新春

No. 2



謹賀新年

曹洞宗 蟠龍山
芳全寺

住職挨拶

新年を迎え、心新たに
スタートの事と存じま
す。

今年国同士での紛争
という混乱を乗り越え、
融和と協調へと舵がきら
れる年にしたいもので
す。

曹洞宗の開祖、道元禪
師はこの精神を「同事
と表現されました。「同
事」をもって人類進化の
一年となりますように。

私たちは、誰もが皆違
い、民族性や宗教、社会
システムの違いなどから
他とぶつかり合い易いも
のです。克服の鍵として、
「和」の国としての日本
が世界和合のリーダーと

令和六年 元旦

蟠龍山芳全寺

住職 荒木龍胤

徒弟挨拶

新春のご挨拶を申し上
げます。旧年中は格別な
ご高配を賜り、まことに
有り難く厚く御礼申し上
げます。

早いもので曹洞宗の教
師資格を頂いてから二年
が経ちました。

本年も曹洞宗の教えを
より身近に感じて頂ける
よう、精進致します。社
会全体が変わりゆく中で
信仰について共に学び、
支え、豊かな心を育んで
いければと思います。

令和六年 元旦

蟠龍山芳全寺

徒弟 荒木玲音

おてらで使う楽器？

法要や行持では様々な楽器（鳴らし物）を使い分けます。
今回はそんな鳴り物について一部紹介します。



もくぎよ

木魚

ホ°ホ°ホ°ク ころろ和む懐かしい音色

お寺と言ったら木魚！というイメージですが、
使われるようになったのは江戸時代になってから。
新しい鳴らし物です。

読経の際にたたいて音を鳴らし、その音のリズム
(速度)にあわせてお経を読む。読経の全体の流れを
生み出し、いわばパーカッション的な存在



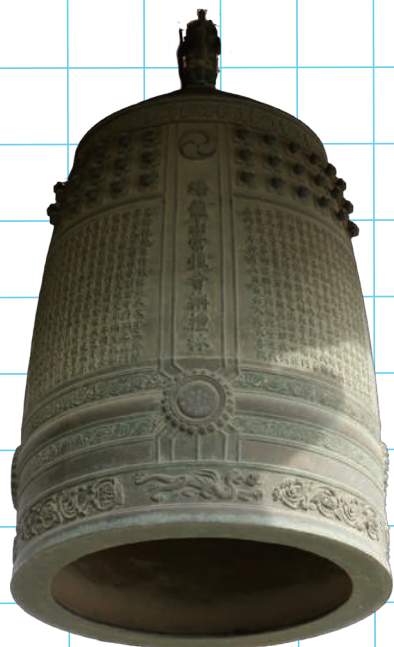
けいす

鑿子

ゴ〜ンと響きわたる音が心地よい

鳴らすタイミングが決まっており、法要では導師
の動きに合わせて鳴らします。また、お経の終了を示したり、
礼拝の合図となるなど、様々な僧侶の動作を促す為に
鳴らされます。

力任せにせず、それぞれの鑿子にあった加減と角度
で打つと美しい音になります。



ぼんしょう

梵鐘

心に染みとおる響き

梵鐘といえば、大晦日の「除夜の鐘」。煩惱を取り
去って新たな気持ちで新年を迎えるために、煩惱と同
じ数の108回突き鳴らす、人々の平安を願う祈願の
鳴鐘です。時刻や法要の合図のために用いることもあ
ります。

梵鐘の音は、かなりの範囲に広がり多くの人々が
耳にするので、「仏さまの声」を届けるという意味も
あります。

同安居対談

「三仏忌」の理解を深める



こうりゆう
田村光隆師
観音寺徒弟
新潟県弥彦村

ゆうぼう
横井有朋師
妙巖寺徒弟
埼玉県上尾市

れおん
荒木玲音
芳全寺徒弟

ときおりゆうしん
釋尾龍信師
正樂寺徒弟
埼玉県久喜市

今回のエコーは埼玉県上尾市にある龍淵山妙巖寺で開かれた同安居（＝修行の同期）との勉強会の様子から、お釈迦様の生涯を通じた大きな三つの節目を表す【三仏忌】の学びをお届けします。私たちと一緒にエッセンスを学んでいきましょう。

降誕会の教えとは

有朋 三仏忌についてそれぞれ選んだ題材の学びを共有していきましょう。まずは降誕会から。

光隆 私はお釈迦様のお生まれのエピソードから「天上天下唯我独尊」というお言葉を深掘りしました。直接的な訳としては「全宇宙の中で自分が一番尊い」ということになり、傲慢な言葉のように誤解されやすいですが、その本質は「この世界に生きる人々は誰一人として無条件

に尊いものである」という意味です。自他を大切にし、敬い認め合う。仏教の根本精神が表れているように感じます。

玲音 その通りですよ。私も同じ言葉の深掘りで降誕会について考えたのですが、少し光隆さんと切り口が異なります。

お釈迦様も人の子としてお生まれになり、生涯を通じて私たちと同じように悩み、苦しみ、そして老いて病にてお亡くなりになられた。このように考えるとお釈迦様の存在も身近に感じられませんか？ 親しい方のお誕生日をお祝いすると同様に、お釈迦様のお誕生日として四月八日の降誕会でお祝いする。

龍信 確かに、そう考えるとお釈迦様のみ教えというのが私たちの心に響く理由が分かりますね。だからお祝いしたくなる。

玲音 そうだと考えています。

そして自己は無条件に尊いが故に、多くの方々と関わって成り立っているため、日々目の前のことに對して「このことは自分にとつても、関わる人にとつても良いことか？」という判断の軸を持つことが大切だと感じます。「天上天下唯我独尊」とは自尊心≠他尊心であることを教えてくれるお言葉ですね。

天上天下唯我独尊 には続きが・・・

光隆 実は「天上天下唯我独尊」のあとにある言葉が続いていることを知っていますか？

一同 初めて聞きました。

光隆 私も今回の勉強会に向けて調べて初めて知ったことなのですが、お釈迦様はその後

「さんがいはいく三界皆苦 吾ごとうあんし当安此」と仰ら

れました。「三界」とは欲界・色界・無色界のことで、いずれも迷いの世界のことです。「どんな人の人生も苦しみである」ということ。「吾」とはお釈迦様のこと。「此」とは三界のこと。まとめると「この釈迦は、三界にいながら仏のさとりを開こう。そして、苦しみ悩む人々を本当の幸せに導こう」という宣言になるのです。

有朋 すべての人が救われる道を切り開くための確固たる決意がこのお言葉に集約されているのですね。

光隆 そういうことです。そして最初に仰られたこのお言葉と

いうのが、み教えの大前提となっていると感じます。お釈迦様がお生まれになってから約二六〇〇年の時が経った今でも、世界中で戦争などの争いご

とが絶えず、人間同士が命を奪い合う心が痛む出来事が起きています。これは、自分と他人や自国と他国を別けて考え、お互いを自分と同じく大切にしてい

敬い認め合う心が欠けているからなのではないでしょうか。
一同 もっと広く物事を捉える必要がありますね。

龍信 ちなみに大学（※駒澤大学仏教学部在学中）にて学ぶ中で、この「天上天下唯我独尊」についても、宗派によって解釈が少し異なると聞いたことがあります。これから僧侶として生きる上で曹洞宗の教えはもちろん、他宗派と比較して見える教えというのもあるような気がします。

玲音 宗派は違えど根本は同じ仏教ですね。外（≠他宗派）の教えから中（≠曹洞宗）の教

えが見えてくる気がしますね。また、一人の僧侶としても幅広い知識を持つことは良いことだと思いますし私も知りたいです。そしてその上で曹洞宗の僧侶として人々にどう教えを伝えていくかが求められますね。

有朋 次回の勉強会のトピックにすることを検討しましょう。宗の教えを学ぶ上でも有意義な時間になりそうです。さて、ではそろそろ次の成道会に入りましょうか。 **続きはHPに掲載**



道元禅師って どんな人？



1 幼少期～入宋

曹洞宗を開いたお坊さん

1200年京都生まれ

高祖承陽大師こうそしょうようだいしと尊称されている

宋の国での典座和尚との出会い

幼少期～

正治2年(1200)正月2日(陰暦)1月26日(陽暦)に京都で生まれました。

8歳のとき、母を亡くし、その際の香の煙を観て、世間の無常を悟り、出家という大願を決意しました。その後13歳のとき、比叡山にいる母方の叔父である良顕を訪ね、そのまま横川の般若谷千光坊に入り、翌年天台座主公圓てんだいざすこうえん(天台宗第70世貫主かんしゅ)に就いて剃髪し、菩薩戒ぼさつかいを受けて仏法房道元と名乗り修行をされました。

入宋

宋の国に渡る約1ヶ月の船旅の道中、痢病を発症した道元は一心に観音経かんのんきょうを唱え念じた結果、海も穏やかになり、痢病からも回復したという逸話があります。それによって仏教の教えに勤勉に臨むことで自らに降りかかる問題を解決できると実感されたと言われています。

無事に宋の港に到着した後、道元禅師に上陸許可が中々降りず船に留まっていたとき、ある老僧に出会います。老僧は修行道場の食事係(

建保5年(1217)秋、18歳のときに建仁寺にて栄西禅師えいさい(臨済宗開祖)の弟子である明全みょうぜんに師事して仏道を求めてさらなる修行に励まれました。

ある時「宋の国に、お釈迦さまの坐禅を正しく伝える禅の教えがあるから、宋に渡って道を求めてはどうか」と、栄西禅師への入門を勧めた天台宗の公胤僧正こういんそうじょうから助言をいただきます。

そして、明全と共に、宋の国に渡ります。

典座和尚てんざ)で、うどんに使う食材を買いに来たのです。道元禅師はその老僧と仏法の話をしたくて船に泊まるよう誘いますが、老僧は道場での食事の準備があるからと、堅く断りました。

道元禅師が「食事の用意は若い者に任せればいいのでは？」と言うと老僧は大笑いして「あなたは修行とは何であるかが全くわかっていない」と言い残して帰ってしまいました。

果たして修行とは何なのか？次号へつづく。



教えて住職さん！

こんな時どうするの？

質問

法事は命日より前に行わないといけな
いと聞いたことがあります。本当ですか？

回答

前に行うのが良いとされていますが、当山
では皆様が集まりやすい日程をオススメ
しています。

ご家族が遠方にお住
みだったり、お仕事の都合で
なかなか集まらないことも
ありますよね。

芳全寺では法事は命日前
に限らず、ご都合の良い日
程をオススメしています。

道元禅師の命日に行われ
る御征忌法要も別院では
一ヶ月遅れで勤められま
す。

故人もご家族の皆さまや
お孫さんの成長を見たいか
と思います。命日前にこだ
わらず、ご都合の良い日を
ご相談いただければありが
たいです。

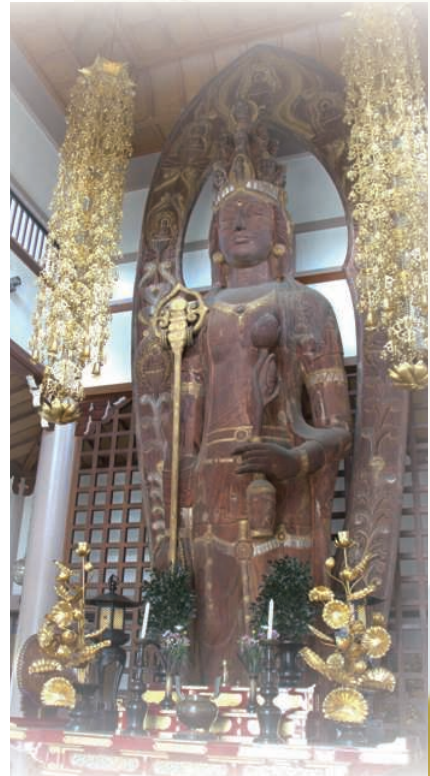
何よりもご遺族の皆さま
が故人を思い、手を合わせ
て冥福を祈る環境が大切で
す。それが故人の善事とな
り、自らに戻ってくるもの
です。

芳全寺では、皆さまからの質問を受け付けています
些細なこと、気になるけど聞けなかったこと、何でもお寄せください！
QRコードを読み取って質問送付▶



だいほんざんえいへいじべついいん ちょうこくじ
大本山永平寺別院 長谷寺

令和三年に修行して
いた禅寺です。観音堂
の大規模改修が終わ
り、改めて足を運んで
参りました。
お堂の中には高さ三
丈三尺（約一〇m）の
十一面観世音菩薩像
で、木造としては国内
最大級の観音像が鎮座
しています。
観音様を見ると、修
行時代が思い返される
足が半歩前に出ており
少し前傾の姿です。
これは人々の苦悩に
共鳴して救いの手を差
し出す。



玲音



特派布教講習会

令和五年六月五日、栃木県宗務所主催の特派布教講習会に住職と徒弟の両名で参加してきました。

群馬県海蔵寺住職の高梨老師による演題「出逢えた喜び」のご法話からご縁の大切さ、目の前にあるものを活かす大切さを学びました。

喜連川少年院視察研修

令和五年六月二日、栃木県曹洞宗青年会による喜連川少年院への視察研修が行われ玲音が参加しました。意外かもしれませんが少年院は僧侶と繋がりが深い場所でもあります。HPにも載せていますのでご覧ください。

教化指導員研修会

令和五年六月二三日、曹洞宗宗務所主催の研修会に教化指導員の玲音が参加し、曹洞宗の歴史、法話、人権学習フィールドワーク、これからのお寺のあり方などを全国の宗侶と学び合いました。

大施餓鬼会

令和五年八月七日、大施餓鬼会法要を教区ご寺院様ご協力のもと営みました。ご参列頂けなかった方のためにも当日の様子を記録に残しました。ご覧ください。



デジタル經典制作

「お経をもっと身近に」というコンセプトのもと手軽にスマホや印刷してご覧頂ける經典を作成しました。※こちらを活用したコンテンツを今後計画しています。



道元禅師御征忌

報恩法脈会

令和五年一〇月二九〜三一日の三日間、大本山永平寺別院長谷寺にて、道元禅師御征忌報恩法脈会が催され、玲音が随喜して参りました。自らが正伝の仏法を学び、行じ、伝えていくことを改めて誓う行持がこの「御征忌」であり、貴重な経験を積ませて頂きました。

合掌

1周忌	令和5年(2023)逝去
3回忌	令和4年(2022)逝去
7回忌	平成30年(2018)逝去
13回忌	平成24年(2012)逝去
17回忌	平成20年(2008)逝去
23回忌	平成14年(2002)逝去

※休日は混み合いますので、お早めにご相談下さい。

編集後記

寺報「芳蓮」第二号をご覧頂きありがとうございます。この寺報は「見る・知る・伝える」をテーマにしており、年二回の発行を想定しています。皆さまからの「読んだよ!」というお声が紙面制作の励みとなっています。皆さまが仏教に興味を持つきっかけとなれば嬉しいです。

個人的話題では、昨年下半年は一時的に教育実習等で不在とし壇務に従事することができませんでしたが、いよいよ大学卒業が射程圏内となってきました。仏道と同様勉強にも精進して参ります。

荒木玲音